令和2年6月定例会 県土整備委員会（付託）

令和2年6月25日（木）

〔委員会の概要 県土整備部関係〕

岩佐委員長

ただいまから、県土整備委員会を開会いたします。（10時33分）

直ちに、議事に入ります。

これより、県土整備部関係の審査を行います。

県土整備部関係の付託議案については、さきの委員会において説明を聴取したところですが、この際、理事者側から報告事項があればこれを受けることにいたします。

【報告事項】

- 「新広域道路交通ビジョン」及び「新広域道路交通計画」について（資料1）

貫名県土整備部長

1点、御報告させていただきます。

お手元に御配付の資料（その1）を御覧ください。

「新広域道路交通ビジョン」及び「新広域道路交通計画」についてでございます。

現在の交通課題の解消や増大する災害リスクへの対応、更には新技術の発展や社会情勢の変化に備えるため去る6月8日、国が新たな広域道路ネットワークに関する提言を公表したところでございます。

これを受けまして、本県の実情を踏まえた広域道路ネットワークの方向性を示す新広域道路交通ビジョン及び新広域道路交通計画の策定に着手するものであります。

まず、新広域道路交通ビジョン（案）の概要につきましては、ミッシングリンクの早期解消はもとより、災害時の多重性や代替性の確保、インバウンドや国際物流などへのグローバル化対応、ICT、自動運転などの技術進展を踏まえたおおむね20年から30年先の広域道路ネットワークの将来像を示すものでございます。

また、新広域道路交通計画（案）につきましては、ビジョンに基づき現在のネットワークや拠点、強化する路線の絞り込みを行い、平常時、災害時及び物流・人流の観点から踏まえた具体の広域道路ネットワークを計画路線を含め構築するものでございます。

今後のスケジュールにつきましては、議会での御論議やパブリックコメントを実施し、年内の策定を目指してまいります。

報告事項は、以上でございます。

御審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

岩佐委員長

以上で報告は終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑をどうぞ。

重清委員

1点だけ、今説明を受けた新広域道路交通ビジョン及び新広域道路交通計画について、今回のビジョン及び計画を策定することに至った経緯など、もう少し詳しく説明していただけますか。

河井高規格道路課道路企画担当室長

重清委員から、ビジョン及び計画の策定経緯について御質問いただきました。

地域高規格道路や直轄国道などの広域道路ネットワークにつきましては、鋭意整備を進めておりますけれども、慢性的な渋滞、交通事故、災害時での対応などいまだ多くの課題がございます。

そこで国におきましては、現在の交通課題の解消や増大する災害リスクへの対応、更には新技術の進展や社会経済情勢の変化に備えるため検討を重ねてまいりました。

去る6月8日、新たな広域道路ネットワークに関する提言といたしまして、中間取りまとめが公表されたところでございます。

この中間取りまとめにおきましては、計画策定に当たりまして意思決定の透明性、公平性、妥当性の確保はもちろんのこと、ネットワークを厳選して整備、機能強化を加速させていくということが提言されております。

これを受けまして、本県の実情を踏まえ広域道路ネットワークの方向性を示すためにミッシングリンクの解消はもとより、災害時の対応などを踏まえましておおむね20年から30年先の将来像を示す新広域道路交通ビジョンとともに、安定的な物流・人流の確保を目指す新広域道路交通計画の策定に着手するものでございます。

重清委員

今回検討される広域道路ネットワークはどのような道路を対象としているのか、もう少し詳しく説明をお願いします。

河井高規格道路課道路企画担当室長

広域道路ネットワークの対象についてでございます。

広域道路ネットワークとは高規格幹線道路を補完しまして、これと一体となって機能する主要な幹線道路で形成されるものでございます。

具体例を申し上げますと、まず地域高規格道路といたしましては、阿南安芸自動車道とか徳島環状道路などが挙げられます。更には直轄国道でございますと、国道55号でありますとか、国道32号といった路線に加えまして、主要な県道も検討の対象になるというふうに考えてございます。

重清委員

策定に当たって四国横断自動車道、また阿南安芸自動車道はどのようになっているのか、どのような位置付けになるのか教えてもらえますか。

河井高規格道路課道路企画担当室長

四国横断自動車道や阿南安芸自動車道はどうなるのかといった御質問でございます。

まず、四国横断自動車道や阿南安芸自動車道は、広域道路ネットワークを構成する非常に重要な路線となっております。

計画策定に当たりましては、ミッシングリンクの解消はもとより、災害時の対応などの視点を踏まえまして平時、災害時を問わない安定的な人流・物流を確保するネットワークの構築を行うものでございます。

特に、阿南安芸自動車道につきましては、四国8の字ネットワークを構成するものでございます。四国はもとより、徳島の背骨となる重要な道路と認識しておりまして、新広域道路交通計画にしっかりと位置付けたいというふうに考えてございます。

この計画に位置付けましたら、より高い定時性を確保する基幹道路となるほか、いざ発災時には、道路啓開や災害復旧に国の代行が期待できるということがございます。

重清委員

阿南安芸自動車道のうち、海部野根道路の事業化をしていただいたのですけれど、海部野根道路はどのような現状か教えてもらえますか。

小津高規格道路課長

ただいま、重清委員から海部野根道路の現状について御質問を頂きました。

海部野根道路につきましては、重清委員をはじめとする県議会の皆様にも御支援を頂いた結果、令和元年度に新規事業化されまして、昨年8月に測量立入りの地元説明会を行い、昨年度中には全区間で測量を終えているところでございます。

現在はこの測量結果に基づきまして、道路の設計を実施しているところでございます。

重清委員

今年度は具体的に何をするのか教えてもらえますか。

小津高規格道路課長

今年度の具体的な取組ということでお答えさせていただきます。

今年度は、早期に海部野根道路の現在やっております設計を終えまして、この計画を地元住民の皆様にも御説明をする設計説明会を開催したいと考えてございます。

この設計説明会で御了解いただきましたら、次のステップでございます用地買収の前段階となります土地の境界を明らかにする境界立会に着手してまいりたいというふうに考えてございます。

また、道路設計と併せまして、橋梁^{りょう}やトンネルなどの構造物についての詳細設計を行う予定としてございます。

重清委員

ただいま説明していただきました設計説明会や境界立会等、これの時期はいつ頃になるのか、どういう状況か教えてもらえますか。

小津高規格道路課長

海部野根道路の整備につきましては、地元でも非常に関心の高い事業であるというふう
に認識してございます。

現在国のほうからは、具体的なスケジュールはまだ示されてはおりませんが、早期に住
民の皆様に説明できるように、設計説明会の開催に向けてしっかりと国に協力してまいり
たいと考えてございます。

重清委員

新型コロナウイルスの感染拡大の状況下において、物流を維持、確保する道路ネット
ワークの重要性が再認識されたところであり、また生産拠点の国内回帰が求められており
時代の変化に応じた計画づくりが必要となってきております。

一方、本県の高速度道路や地域高規格道路の整備は道半ばと言えるのではないかと
思っております。

私も県議会に出させてもらって19年目になるのですけれど、いまだに2時間掛かり
ます。少しずつ良くなったと言っても、開通しているのは日和佐道路だけです。あとの徳島
市から小松島市、阿南市は全て昔のままの道でありまして、なかなか進んでいないのがこ
の徳島県の現状ではないかと思っております。

西のほうではもう高速道路ができて、最初の頃は藍住間とかがまだ開通していなくて、
いろいろと少しずつ行っていても全線開通して、今は4車線化がどんどん進んでおりま
す。

南はいまだに、徳島市から南はまだ小松島市も阿南市も何もないような状況で、確かに
遅れていると思っておりますので、本当に全力を挙げて取り組んでいただきたい。

本当にいつがきたら、ちょっとでも交通の便が良くなるのか。代替道路としてもミッシ
ングリンクの解消としてもこの道路は必要でしょう。何としてもこれは進めていただきた
いと思っております。

県南もやっとなり事業化してもらって、本当に喜んでいるのです。

しかしながら、先ほども聞いたようにここ最近は何をしているのか分からないと、何も
見えてこないの、早く見えるように工事にも入っていただきたいし、それからあとの道
路も進めていただきたい。

なかなか本当に那賀川の橋だって架かって10年以上たっているでしょう。何にもでき
ないと。それで小松島市でもたくさん橋脚ができたけれど、何にも次につながっていか
ない。

できるだけ早く集中投資していただきたいし、本当に時間が短縮できるようにつながら
ないと無理です。早くつなげていただきたい。県南の人は特に長い間待っているのです。

今回のように地域に帰ってこいという話もあるのだから、そのために道路は必要です
ので、是非とも全力で取り組んでいただきますよう強く要望して終わります。

大塚委員

新たな海上交通実証運航事業についてお尋ねしたいのですけれども、昨年新たな海上交
通の導入事業ということで、6月補正予算に500万円ということでそれをやられているブ

ランです。

今年2月の徳島新聞の鳴潮の中で、昔に言う阪神航路、阿摂航路ということなのですけれども、私なんかでも非常によくこれを使わせていただいて、大阪圏から東京都へ行ったりしたわけです。便利さと日本の発展の中で非常に大事な航路だったわけです。

橋ができたという経緯でそういう運航が途絶えているという中で、東京2020オリンピック・パラリンピック、それから2025年には大阪・関西万博に向けて外国人の方がたくさん来られるということで、交通手段の一つとしてもそうですし、観光資源の一つとして、これから徳島県発展のため非常に大事な事業と思うわけです。

それについてお尋ねしたいのですけれども、最近こういった新型コロナウイルス感染症ということで、国内の各地で移動制限がございまして、国内旅行については今後Go Toキャンペーンによって交流人口の回復が期待される中ですが、海外からのインバウンドにつきましては、先日の報道などでも5月の実績で99.9パーセント減の僅か1,700人で外国からの観光はほとんど見込まれない。

そういう中において、新たな海上交通実証運航事業についてはどのように進められているのか教えてもらいますか。

遠藤運輸政策課長

ただいま、新たな海上交通実証運航事業につきまして、どのように進めていくのかという御質問を頂きました。

来年以降は、大塚委員もおっしゃいましたように東京2020オリンピック・パラリンピック、またワールドマスターズゲームズ2021関西が開催されまして、2025年には大阪・関西万博の開催など、今後世界中から来訪が見込まれるチャンスが到来してまいります。

本県といたしましても、これを好機と捉えまして関西から多様な交通手段を確保いたしまして、本県への誘客促進や交流人口の拡大を図ることが重要であると考えております。

その一つの方策といたしまして、本県と関西圏域を結ぶ新たな海上交通実証運航を今年度に行いたいと考えてございます。

当初想定していた計画では、関西国際空港等を結ぶ周遊ルートを設定いたしまして、海外からのお客様を中心にニーズの把握とか課題の洗い出しを行うこととさせていただいていたところですが、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響に伴いまして、大塚委員がおっしゃいましたとおり訪日外国人観光客が大幅に減少してございます。いつかは帰ってくると思うのですけれど、しばらくはこのインバウンドの回復が見込めないということでございます。

そこで、まずは今回この実証運航に関しましては、国内関係者をターゲットに大阪・関西万博を見据えまして、実証運航をさせていただきたいと考えてございます。

そこで運航システムの確立やニーズの把握等を行いまして、様々な意見を頂きながら段階的に2025年を目途に本格運航につなげてまいりたいと考えてございますのでよろしくお願いたします。

大塚委員

ありがとうございます。2025年の大阪・関西万博に向けて、先を見据えた誘客推進のた

めの海上交通導入に向けた実証運航の必要性については理解できたわけでございますけれども、これからも国内ターゲットを中心に、運航システムを確立していき、更には利用者からのいろんな御意見を頂きながら、実際にどういうふうにやったほうが利益率の面でもちゃんとやっていけるのか。

それから、魅力がどうなのかということがあるのでございますけれども、実証運航のルートとか時期など、具体的な内容についてお聞きしたい。

遠藤運輸政策課長

紀伊水道を結ぶ路線につきましては、瀬戸内海などの近海を航行します船とは仕様が大きく異なっておりまして、海上交通実証運航事業につきましては、航行可能な船舶が限られてございます。

保有している会社も限られておるということで、現在会社とか使用船舶について調整をさせていただいているところでございます。

今後使用船舶を決定いたしまして、船を係留する条件とか能力に応じまして運航ルートや運航時期の検討を行う必要があると考えてございます。

船会社や県庁内のプロジェクトチーム、観光に携わる皆様方の御意見も踏まえながら、絶好の行楽シーズンとなります秋頃の実施に向けまして、具体的な内容を詰めていきたいと考えてございますので、よろしくお願いたします。

大塚委員

船について御質問したいのですが、あそこは非常に波もきつい所ですし、潮流も厳しいということで、これに向けた船を造るのですか。それとも実際にある船を使うのですか。

遠藤運輸政策課長

実際に船を造るとなりますと相当なお金も掛かることから、実証運航におきましては民間の会社が所有しておる船をお借りして、実証運航をさせていただきたいと考えてございます。

大塚委員

ありがとうございます。実際、実証運航でどういったところからどういった航路でやって、それでももちろん利益も考える。それから魅力のある航路というものも作る必要があると思います。

以前のように運ぶだけのものでは魅力として十分ではないと思いますし、あそこは鳴門の渦潮とか島とか橋ですね、皆さんが非常に魅力を持つところがあるわけです。

今は高速バスで行っていますけれども、そうするとそういうことを見ることができないし、高速バスは関西空港まで3時間掛かるのです。そういう中で、前の高速船なんかは1時間半ぐらいで行けたわけです。

利便性プラスそういった魅力というものも含めて、やはり実証実験の中でいろいろと検討していただきたいと思っております。

とにかく、こういったコロナ禍^かにおいて新しい生活様式がなされているわけですがけれども、今は国内での旅行とかが少しなされた状態ですがけれども、これから本県の発展、鳴門市とかそういった所の魅力を引き出すためにも、こういった航路が非常に大事なことだと思いますので、実証実験をやりながら利便性ももちろん考えながら、是非徳島の魅力を全国に出していただきたいと思います。

岡委員

2点ほどお伺いさせていただきたいと思います。

まず1点目ですが、昨年の県土整備委員会でも1年間いろいろ議論がありました旧徳島市文化センター跡地の県有地についてですがけれども、徳島市長が替わられて就任後に市から何か報告であったりとか、相談というものがあつたのかなかつたのか、お聞かせいただきたいと思います。

井上都市計画課長

4月18日に内藤市長が就任されたあと、徳島市からの連絡等に関しての御質問でございますが、6月4日徳島市議会のまちづくり対策特別委員会におきまして、徳島市が整備をしております新ホール整備事業については、優先交渉権者の白紙撤回ということが表明されております。

この表明に当たりまして、その前の週の5月29日金曜日になりますけれども、徳島市の文化振興課長のほうから私に電話がございました。

電話の内容につきましては、徳島市の新ホール整備事業の県との協議停止の原因が、徳島市側が行った優先交渉権者の選定の公表であるということから、今後県市協調で事業を進めるためにまずは優先交渉権者との白紙撤回を行いたいと。

この白紙撤回につきまして、6月4日の徳島市議会まちづくり対策特別委員会、また翌日に開催されました事前の総務委員会において白紙撤回の表明をするというような内容の連絡がございました。

岡委員

今のところはそれぐらいの連絡ということなのですがけれども、今後県としてどのような対応をしようとしているのかということについてお考えがあればお聞かせをいただきたいと思います。

井上都市計画課長

今後の進め方につきましては、徳島市においては県市協調により新ホールの整備を進めていくため県の理解を得ることを最優先に取り組むとの考えから、優先交渉権者との白紙撤回が表明されております。

また、今開催中でございます徳島市の6月議会におきましても、白紙撤回後の対応につきまして、県有地の土地問題について徳島市の方向性を検討し決まった段階で協議の再開を申し入れたいとの答弁もなされております。

ですので、徳島市議会での議論を踏まえた徳島市としての方針が決まれば、県に御報告

いただけるのではないかというふうに考えております。

県といたしましては、御報告いただいた徳島市の方針につきまして、県土整備委員会に御報告させていただくとともに、昨年12月徳島県議会におきまして徳島市新ホール建設予定地における県有地の扱いに関する決議を頂いておりますので、こういった方針、それから県議会での御論議を踏まえて適切に対応してまいりたいというふうに考えております。

岡委員

先ほどもお話がありましたように、優先交渉権者を白紙撤回するということが徳島市議会で報告されたということで、明らかに前の市政とは考え方が変わってきたのかなと思います。

まだ県に対して、徳島市の土地だとか訴訟を起こせとか言う一部の人がいらっしゃるみたいですが、常識的に冷静に考えたら十分分かることだと思います。

今話を聞いてみますと、しっかりと協議ができるように持っていける体制づくりに進めていけるのではないかなというような期待感がありますので、今後もしっかりと相談なり電話なりで話をしながら、最終的に県市協調で事業を進めるというか、私が問題にしたのは県の土地の問題ですので、土地の問題に関してもきちんと判断を下していただけるようにしっかりと進めていただきたいと思います。これはお願いをしておきたいと思います。

あともう1点ですが、徳島外環状道路について、安宅の降り口まではできていますよね。そこから末広大橋の所までの区間、末広大橋から新浜町のほうへ直接下りていく区間、あと一宮町から国府町へ渡る橋の部分の状況と今後の見通しが分かるのであればお聞かせいただきたいと思います。

清水道路整備課長

ただいま、岡委員のほうから徳島外環状道路の徳島東環状線と徳島南環状道路の整備状況について御質問を頂いております。

まず、徳島東環状線の状況から御説明させていただきます。

東環状線の北側は、徳島市川内町平石の国道11号交差点から南側は八万町大野の国道55号の交差点までの区間を整備しております。全長約10.4キロメートルございまして、北側から順番に川内工区は道路事業として整備、あと阿波しらさぎ大橋と末広住吉工区につきましては街路事業、あと先ほどお話にもありました新浜八万工区については道路事業として整備しております。

このうち、私からは道路事業について御説明させていただきます。

まず、一番北側の川内工区ですが、そこは国道11号から阿波しらさぎ大橋の北詰めまで3.3キロメートルについて、平成11年度から事業に着手しまして平成24年4月までに供用しております。

お話がございました新浜八万工区につきましては、末広道路から国道55号までの2キロメートルにつきまして、平成8年度に事業着手いたしまして狭隘な道路を解消するとともに整備効果を早期に発現させるために側道部^{あい}を優先的に整備してきておりまして、現在徳島小松島港線から国道55号までの1.7キロメートルを平成25年4月に暫定2車線で供用し

ております。

平成30年の2月定例会の代表質問におきまして、岡委員から御質問いただきまして、渋滞対策として整備しております末広道路と新浜八万工区を直接結びます暫定的な道路整備や国道55号までの側道部の4車線化工事につきましては、現在下大野橋の北側車線への切替えが終わりまして旧橋を撤去し、現在下部工事に着手しておる状況でございます。

併せて末広道路との取り合い部の工事や水路工事などを鋭意進めているところであります。本年度に予定されております津田インターチェンジの完成に合わせて供用できるようしっかりと取り組んでいるところでございます。

井上都市計画課長

御質問がありました徳島東環状線の街路事業の部分について御説明を申し上げます。

街路事業として事業化している区間につきましては、阿波しらさぎ大橋の北詰めから末広大橋の北詰めまで大体延長で約3.1キロメートルとなっております。

工区といたしましては、先ほど清水道路整備課長から御説明がありました阿波しらさぎ大橋の工区と末広住吉工区の二つに該当いたします。

これまでの整備状況ですけれども、平成24年4月徳島市の川内工区と阿波しらさぎ大橋、それと南側の徳島市住吉の市道常三島沖洲線の交差点までのランプを含む約1.7キロメートルの供用をいたしております。

末広大橋と阿波しらさぎ大橋を高架でつなぐ末広住吉工区につきましては、北から南へと順次施工しております。平成27年3月に安宅交差点への下りランプ南行き950メートルを、昨年3月には安宅交差点から北行きランプを含む940メートルを供用しております。

残る安宅交差点から末広大橋までの区間として800メートルほどございまして、現在昨年度から3か年の継続費をお認めいただき安宅交差点をまたぐ橋梁^{りょう}の上部工を整備しております。また、末広大橋へと続きます高架部の橋梁^{りょう}の下部工事も鋭意進めているところでございます。

現在の整備状況と今後の見込みですけれども、末広大橋までの残りの区間である安宅交差点から南側については、本線に架かる橋梁^{りょう}の下部工事が橋台と橋脚を合わせまして10基残っております。

それからランプが上り下りで一つずつ付しまして、その部分の下部工事が4基、それから本線上部工約430メートルの工事が残っております。

あと末広大橋に対して、途中から下り部分の高さを上げて高架部につないでいくということになりまして、末広大橋の現道部分の約170メートルを盛土で高さを合わせていくというふうな工事も残っております。

このうち、今年度は今年から来年にかけて本線部分の下部工5基、それからランプ部の下部工事を2基予定しておりますけれども、まだまだ工事が残っているというふうな状況でございます。

先ほど言いました末広大橋の接続部は、現道交通を確保しながら工事を行うということで、どういった仮設構造物をやっていくのか、詳細設計を実施しているところです。

今後ともコストの縮減、工期の短縮を図るとともに必要な予算の確保に努めまして、で

きるだけ早い完成に向けて頑張っていきたいというふうに考えております。

小津高規格道路課長

私のほうからは、徳島南環状道路について御説明させていただきます。

徳島南環状道路は国府町の国道192号から国道55号までの延長9.5キロメートルの区間において、国土交通省が国道192号のバイパスとして整備を進めておりまして、このうち国道192号から鮎喰川の左岸堤防までの側道が供用されております。

また国道438号から国道55号までの区間につきましては、国道から県道宮倉徳島線までの間の側道部分が、更には県道宮倉徳島線から国道438号線までの区間が自動車専用道路として供用されておるところでございます。

残る区間につきましては、岡委員からもお尋ねいただきました鮎喰川の周辺になるのですが、この区間は鮎喰川左岸堤防から国道438号線までの間、約4キロメートルの区間につきましては一部工事が進められているものの、相続や地図混乱などの理由から用地取得が8割程度というところになってございます。

このため、残る用地につきまして県も協力の下、粘り強い交渉を重ねるとともに、交渉のみでは困難な土地の課題解決に向けまして、事業認定申請に向けた資料作成等を行っているところございまして、早期の用地取得を図ってまいりたいと考えてございます。

今後とも国に積極的に協力し、用地取得や事業が円滑に進むよう取り組んでまいりたいというふうに考えてございます。

岡委員

ありがとうございました。末広道路から新浜町のほうへ降ろしていく工区に関しては今年度中ぐらいをめどにできるということで、またこれも地域の方々とか徳島市内に住んでいる人に対して、そこの渋滞はものすごいものでありますので、その解消にちょっとでも役に立ってくれたらいいかなと思っております。

初当選したのは10年ぐらい前ですけども、実はその時からずっと聞いています。どうなのですかと、徐々に徐々に進んできてますし、本当に皆さん方には御努力いただいているということは感謝もしておるところでございますけれども、何で数百メートルができないのというような声を本当にたくさん頂いております。

その都度説明はするのですが、道路というのは最終的にきちんとつながっていかないと本来の役目を果たせないという部分が非常にあるものだと思っております。

特に阿波しらさぎ大橋から末広住吉工区は大渋滞が起こっているのは御存じでしょうし、急いでいただいているのは分かるのですが、なかなかはっきりとしたことが言えないというのはもどかしい部分とか、地域の方々にしてもいつになったらできるのかというような声が上がっています。努力していただいているのは分かっていますし、最終本線につながるところが非常に難しいということを前から聞いております。

ただ、何かこういうような工法でやりますよとこういうような形でやって、これくらいにはめどが立ちますよということを早く発表できるような段階になっていただきたいと思います。

一宮町から国府町のほうもそうです。大体こういうような工法で、これぐらいでできそ

うですというような情報が早く出せるように、今までの努力も分かるのですが、更にいろんな知恵を絞っていただいて、一日も早くいい発表が聞けるように御努力をしていただきたいなということをお願いして終わりたいと思います。

谷本県土整備部副部長

先ほど、岡委員のほうから徳島市の新ホール事業に関する徳島市への対応について御質問いただいております。

徳島市におかれましては、今後、土地の帰属問題などの様々な問題に向けて徳島市議会で議論がなされ、徳島市の方針が決定されるものと考えております。

それをもって、県に対し徳島市の方針が示された場合には、県議会の皆様に対し御説明をし県民の利益が最大になるようしっかりと協議を行い、対応してまいりたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

臼木委員

つい最近起きた県道鳴門公園線での県外客の重大な人身事故の状況について、教えていただけますか。

大森道路整備課強靱化・安全対策担当室長

ただいま、臼木委員より先頃発生した重大事故について御質問いただいております。

新聞報道によりますと、去る6月21日、日曜日の午後4時10分頃に鳴門市鳴門町土佐泊浦の県道鳴門公園線におきまして、道路脇の路側帯を歩いていた親子が乗用車にはねられて、1名の方が重体となるというような交通事故が発生しております。

現場は見通しの良い片側1車線の直線道路であり、南進していた乗用車が同方向に歩いていた2名を後方からはねたという事故でございます。

この事故を受けまして、翌22日に私自身現場のほうを確認しまして、こういった箇所で行ったのかという現地の状況を確認しております。

その後の対応については、徳島県警察とも一緒に現場のほうを確認しまして、今後できる交通安全対策について検討を進めてまいりたいと考えております。

臼木委員

私の記憶では、歩道の所は海側で少し海のほうに出ていったら何か上がったたり下がったり凹凸のある歩道ですよね。少し改良施工していただく方法はなかったのかな、少し整備をしていただけないかなと思って質問したわけです。

昔から少し問題があるような歩道かと思っていたのですが、海側へ少し延ばすとか凹凸をなくすような改良の余地はありませんでしょうか。

大森道路整備課強靱化・安全対策担当室長

現場は、海側の路肩部分で交通事故が発生したということでございます。

現地の状況は道路の路肩で舗装部分です。それから海側に砂浜の部分が一部ございまして、防砂フェンスが設置されておるという状況でございます。

ちょうど現場の西側で、電線共同溝の整備に併せまして歩道の整備を進めておりまして、現在、事故現場を含みます700メートルの区間で整備を完了しております。

それから北側に向けて、同じく400メートルの区間について今後歩道整備をする予定で進めております。

元木委員

私のほうからも事故に関連してですけれども、事故は事故といいましても建設労働現場での事故に関して、とりわけ建設産業の就労環境の改善に向けた担い手の確保の観点から質問をさせていただきたいと思っております。

本会議におきましても労働死亡事故の件数等を紹介させていただきまして、就労環境の改善による担い手の確保について質問をさせていただきました。

答弁では、安全や健康の確保はもとより、職場環境の改善や人材育成など多様な担い手の目線を取り入れた計画を策定するというお話を頂きましたけれども、もう少し詳しく説明いただけたらと思っております。

大西建設管理課振興指導担当室長

元木委員より計画の内容についての御質問でございます。

建設産業の担い手の確保、更には建設産業の発展に資するよう建設現場で働く人たちの安全や健康の確保、処遇の改善を推進する計画を策定したいと考えております。

まず安全や健康の確保といたしましては、建設産業においては労働災害が多いことから墜落・転落災害の防止対策、ICTを活用した施工方法の推進、建設現場におきますリスクアセスメントの推進といったような内容を計画に盛り込んでいきたいと考えております。

また処遇の改善といたしましては、建設産業は年間の総労働時間がほかの産業と比べまして300時間以上、約2割長いことから、週休2日の推進など働き方改革の推進に関する内容を盛り込んでいきたいと考えております。

そのほかにも、今般の新型コロナウイルスの感染防止の観点から新しい生活様式を取り入れた職場環境の改善、更には快適トイレに代表されますような女性が働きやすい職場環境づくり、女性や若者が活躍できるよう建設ICTに対応した専門人材の育成といった女性や若者の視線に立った取組も含めまして、就労環境全体の改善を目指した計画を策定していきたいと考えております。

元木委員

是非この担い手不足という課題を解決するために、これから建設産業を担っていかうという意欲を持たれておられる方々に寄り添った対応をしていただきたいと思いますというわけでございます。

特に墜落・転落災害が多いというようなお話もありました。地元のほうでも事故が時々ありまして、建設産業にこれから子供さんを働かせていかうかと考えている御家族の方も心配しておるのではないかと思うわけでございます。是非この安全面というのを一番に考えていただいて、計画にしっかりと盛り込んでいただきたいと思います。

加えまして、全国的には小規模な事業者において精神的な疾患を抱えておられる従業員の方が増えておるということを伺っております。

総労働時間の抑制ということにつきましても、製造業等のほかの業種と同様に抑制していただけるような方向で進めていただきたいと思いますというわけでございます。

そしてまた、御答弁いただきました新型コロナウイルス感染症対策というのが今大きなテーマでございます。

現場で働いておられる方々もかなり気を使って仕事をされておられるのではないかなと思うわけございまして、この新しい生活様式に対応した取組ということにつきましてもそれぞれの事業者さん任せにするのではなく、県のほうからも大きく方向性を示していただいて、現場の方が柔軟に対応していただけるような取組を進めていただきたいと思います願っておる次第でございます。

それでは次にもう1点質問させていただきますが、女性や若者をメンバーに含めた計画策定検討委員会を7月中にも立ち上げるということでございますけれども、これはどういったメンバーを考えておられるのか、また計画策定の今後のスケジュールはどうなっているのかをお聞きしたいと思います。

大西建設管理課振興指導担当室長

元木委員より計画策定検討委員会のメンバー、それから今後のスケジュールについて御質問を頂きました。

計画策定検討委員会のメンバーにつきましては、労働災害を専門に所管しております徳島労働局といった国の機関や徳島県建設業協会をはじめとする業界団体、更には現場をよく知る女性や若者の従事者を含めたメンバーを予定しております。

次に今後のスケジュールでございますが、7月から計画策定検討委員会を開催いたしまして、11月議会の県土整備委員会では計画の素案をお示ししたいと考えております。

その後パブリックコメントを経まして2月議会の県土整備委員会で最終案をお示しし、今年度中の策定を目指したいと考えております。

元木委員

今年度中の策定ということでございますので、しっかりと計画的に取り組んでいただきたいと思います。

まとめとなりますけれども、是非この現場で活躍されておられる建設工事従事者の方に焦点を当てて、安全・健康の確保、処遇の改善に関する計画を策定し、就労環境の改善を推進することは、女性や若者などの担い手の確保に向けて大変重要であります。

若者の建設業離れが進んでいる中におきまして、災害復旧や県土強^{じん}靱化に大きな役割を果たしている建設産業の担い手確保につながるようしっかりと取り組んでいただきますよう要望をさせていただきます。

最後に貫名部長のこの課題に対する御認識と今後の取組に向けた決意を答弁いただきまして、質問を終わらせていただきます。

貫名県土整備部長

元木委員ありがとうございます。建設業界は、若者の建設業離れが非常に顕著であると思っております。

これからどんどん人口が減る中で、建設業を魅力的な産業にしていく必要があると考えております。

元木委員からも御指摘のとおり労働災害の多さ、あるいは労働時間の長さ、こういったものが悪い就労環境といったイメージを持たせており、こういったものに関して改善をしていく必要があると考えております。

また建設業の方々からは、夢のある若者の確保に向けてはICT技術の活用、あるいは週休2日の推進といった魅力ある職場づくりが必要との御意見も頂いているところでございます。

現在コロナ禍において地域経済が大きな影響を受けておりますが、建設産業はそういう中で社会、経済を下支えする非常に重要な産業と考えております。

また、これから大雨のシーズンになりますけれども、自然災害において災害復旧、復興において本当に主役となって地域を支えていただく基幹産業であると考えておりますので、今後も建設産業が働きやすく魅力ある産業として持続的に発展できますよう i - C o n s t r u c t i o n であるとか、あるいは先端技術の活用、こういったものを盛り込んだ安全・健康の確保、処遇の改善を図っていく計画を策定し、建設現場で働く人たちの就労環境の改善に資するような計画を立てて、担い手の確保にしっかりと取り組んでまいりたいと思っておりますので皆さんも御協力よろしく願いいたします。

梶原副委員長

3点ほどお伺いさせていただきます。

質問の前に先ほど岡委員から徳島外環状道路について質問がございました。

今着々とできているところですが、徳島東環状線の高架下の土地ですが、ちょうど阿波しらさぎ大橋の辺りの道路を私も見ましたけれど、大体500坪から1,000坪あるのです。これからずっとできていくにつれて、市内の中心部で大きな有効な土地が高架下にできると思います。

今、国土交通省も高架下の土地の活用については、一生懸命やってくださいというふうに促していますので、県のほうも今から考えておいていただければと思いますのでよろしく願いいたします。

最初の1点目は予算についてですが、新道路環境整備事業というのが今回800万円、新規事業で上げられています。歩道と路肩の清掃に関する経費ということで新規事業になっているのですが、どういう事業をするのか教えていただきたい。

清水道路整備課長

梶原副委員長のほうから、道路環境整備事業の新規800万円の内容について御質問を頂いております。

この事業は歩道部と路肩部、交通安全施設などが汚れていたら道路のイメージダウンにもつながってきますので、そこを整備して環境にも寄与していくというふうな取組でございます。

梶原副委員長

そういった事業は今までもやっていたような事業だと思うのですが、新規事業ということで何か特色はあるのですか。

清水道路整備課長

この事業はアウトソーシングによる大学生などの雇用を考えておきまして、建設業で新型コロナウイルスの影響を受けて休職者を臨時的に雇用できるように、全庁的に考えておきまして延べ320人程度を見込んでおります。そういうところが新規ということでございます。

梶原副委員長

分かりました。歩道部の清掃については市町村のアドプト事業がありますので、県としてもアドプト事業の参加団体が増えるように後押しをしていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

2点目は県営住宅の施設の管理についてお伺いいたします。

今年の2月下旬から3月中旬にかけて、石井町の曾我団地で12棟の266世帯という大きな団地の浄化槽の排水施設が故障しまして、大変大きなトラブルになりました。3週間にわたって水の利用が制限され、本当に大変なトラブルだったと思うのですが、ちょうどこの時期に徳島県で初めて新型コロナウイルスの感染者が出た時期でもありまして、一時期トイレとかお風呂の水が流せないで、外に仮設トイレを設けていただいて、そこで皆さん用を足していただくといったことで、冬の大変寒い時期でもありましてちょっと心配されたのですが、そこに住む住民の方の御協力と、また住宅課の職員の方が24時間体制で復旧に当たっていただきまして、本当に有り難かったなと思っております。

県営住宅は、障がい者の方とか高齢者の方が大変多くお住まいですので、こういった給排水施設が使えないとトイレも流せないとか、水が使えないとなると本当に命に関わるような事故が起こるかもしれない。そういった大きな問題にならなくてよかったなと思うのですけれども、やはりふだんからの念入りのメンテナンスが必要ではないのかなと改めて感じております。

今回の事案の概要と県としてどのように対応されたのかを教えてくださいたいと思います。

山口住宅課長

ただいま、梶原副委員長のほうから御指摘を頂きました石井曾我団地の浄化槽の不具合事案についてお答え申し上げます。

今回の事案は、県営住宅石井曾我団地に設置しておりました地下の浄化槽に不具合が発生いたしまして、適切に排水がなされなかったという事案でございます。

この間、緊急的な断水措置もこちらで行っていただけましたので、今御指摘いただいたように住民の皆様には非常に御不便をお掛けしまして大変申し訳なかったというふうに思っております。

まず、事案の件について御説明させていただきます。

県では2月25日に、地下の作業室で浄化槽から水が漏れて浸水されているということを確認いたしました。その日のうちに、住民の皆様にはまずは節水をお願いしました。

しかしながら、バキュームの能力と比べますとやはり流入する排出量が多いということで、このままでは周辺の地域への溢水の危険性があったということですか、住居内のトイレから汚水が逆流するというおそれもございましたので、翌日の夜に緊急的に断水をやむなく開始させていただいたという状況でございます。

その後、地元の石井町をはじめ周辺市町の御協力も頂きながら、バキュームによる汚水の排出を続けました結果、水位が低下してききましたので2月26日に断水を解除しましたが、28日からは短時間ではありますけれども一定の給水時間を設けるようにいたしまして、その後も順次バキュームの進展に応じて給水時間を延長するという形で、住民の皆様の御不便をできるだけ少なくするように工夫をしてきたところでございます。

さらに、3月14日には並行して進めておりました仮設の浄化槽を地上に設置することができましたので、3月14日の運転開始に伴いまして17日ぶりに断水を全面解除させていただきました。

そのあと3月19日には、実際に不具合が起きた地下の浄化槽についても、部分的には一部機能が復旧できましたので、バキューム作業をしなくても排水を賄えるという状況までこぎ着けたところでございます。

断水期間中の県の対応についても御指摘を頂きました。

梶原副委員長から既にコメントを頂きましたけれども、全面解除までの間、24時間体制で浄化槽の監視をするということ、また住民の方から何かお困りのことがあればすぐに対応できるようにということで、団地内の集会室のほうに県職員が24時間宿直で必ず誰かいるという状態を確保いたしました。

さらには団地を管理している徳島県住宅供給公社とも協力をいたしまして、毎日壁新聞を発行させていただいて、今どういう状況にあるかということをお知らせするということを行いました。また、仮設トイレを設置して毎日清掃も行いまして、できるだけ御不便を少なくするというところまで行っていました。

また、断水も行いましたので、僅かながらではございますけれどもペットボトルで水を配布するなど、こちらも御不便を少しでも解消するようにということで工夫をさせていただいたところでございます。

住民の皆様のお不安や御不便を少しでも和らげることができるようにということで、住宅課はもちろんですが、営繕課などの他課の協力も頂きまして県土整備部一丸となって全力で取組を進めてきたところでございます。

現在は、地下浄化槽の完全復旧に向けた作業を進めているところでございます。こちらも早期に完了できるように対応していきたいと思っております。

梶原副委員長

分かりました。今後、ほかの県営住宅でも老朽化がかなり進んでいるところも多いですので、今回と同じような事案が発生しないようにしっかり原因究明をしてほしいです。これは住民の方もしっかり原因を究明してほしいと言われております。

また、ふだんの給排水施設の管理体制に問題がなかったのか。その辺もしっかりと検証していただきたいと思っておりますが、その点はいかがでしょうか。

山口住宅課長

梶原副委員長の御指摘のとおり今回の事案を踏まえまして、再発防止は石井曾我団地だけではなくてほかの団地も含めて対応を進めることが急務であるというふうに認識をしております。

まずは、今回そういったことも考えまして、今回の事案についてしっかりと精査を進めていく必要があるだろうということで、第三者であるコンサルタントに調査業務を委託いたしまして、原因調査を進めていただいているところでございます。

今後その結果を踏まえて、再発防止策をしっかりと整えていきたいというふうに思っております。

この調査ですけれども、完全に地下作業室が水没したり、新型コロナウイルス感染症の拡大によって関係者のヒアリングに少し時間を要しているというところもございまして、現時点ではまだ報告書を頂けていないところではございます。

ただ、今の時点でできる当面の措置といたしまして、住民の皆様が浄化槽の不具合を発見した場合に、徳島県住宅供給公社などの関係部局へすぐに連絡ができるようにということで、浄化槽が置かれている全ての県営団地について異常発生時に点灯するパトランプのすぐ近くに緊急連絡先が分かる掲示を行うように対応を進めているところでございます。

対象となる24団地中23団地は既にこの掲示を終えておりまして、7月中には全ての団地で対応を終える予定でございまして。

引き続き、住民の皆様が安心して生活をしていただけるように、浄化槽のメンテナンスを含めた対応をしっかりと進めていきたいと考えております。

梶原副委員長

分かりました。新型コロナウイルス感染症といった大変な時期ですので、しっかりと完全復旧できるように進めていただきたいと思います。

最後に、徳島駅周辺のまちづくりについてお伺いいたします。

いよいよ、そごう徳島店が8月に撤退をするようになりまして、周辺の商店や従業員の皆様は次期テナントも決まっていなくて、本当にどうなるのだろうかという不安な日々を送られております。

そうした中で、徳島市長も替わられて新しい市長はわくわくするようなまちづくりをしていくということで、まちづくりに対してすごい意欲のある市長であります。

ですので、徳島駅周辺のまちづくりは、本当に大きくいい方向に持っていくチャンスだと思いますので、今後の取組を県としてどのようにしていくのかお聞かせいただきたいと思います。

井上都市計画課長

梶原副委員長のほうから、徳島駅周辺のまちづくりに対して今後どのように取り組むのかという御質問でございまして。

徳島市内の鉄道高架と関連するまちづくりにつきましては、鉄道高架を県に、まちづくりについては徳島市というふうな役割分担をして進めているところでございます。

一方で鉄道高架と徳島駅周辺のまちづくりにつきましては、一体的に整備することに大きな事業効果が発現されるということから、これまでも県といたしましては、徳島市が実施するまちづくりに対して補助金を支出するなど支援をしてきたところでございます。

昨年でございますけれども、徳島市が徳島駅周辺のまちづくり計画の詳細な検討を行いたいというふうな話がございますして、県におきましては昨年度の予算として1,100万円の補助予算を県議会にお認めいただき、いつでも支援できる体制を整えてまいりました。

しかしながら、先ほど梶原副委員長のほうからもお話がありましたように、昨年10月に今年8月末をもってそごう徳島店が撤退するということが発表されるなど、徳島駅前のにぎわいの在り方に変化がございました。

そういうこともございまして、徳島市においては徳島駅周辺のまちづくり計画の詳細な検討に取り掛かれなかったというふうな経緯がございますして、県の補助金につきましても昨年度の2月議会において減額という措置となっております。

今年4月、内藤市長が新たに誕生いたしまして、徳島市長選のマニフェストを見てみますと中心市街地、徳島駅前のグランドビジョンの構築を掲げられております。

また6月の市議会、6月18日の総務委員会のほうで徳島市まちづくり総合ビジョンを見直すというふうな方針も示されて、新たなまちづくりに対する考え方が盛り込まれていくのではないかと思います。

今後、徳島市から鉄道高架と関連するまちづくりについて具体的な方針、見直したいというふうな方針が示されれば、まずは徳島市と話し合いを行っていきたいと考えております。

その話し合いの中で、徳島市のほうから補助金を頂けないのかという話がございますたら、補助金が必要なところの内容を精査いたしまして、県議会に予算をお願いする形になってまいるのかなと考えております。

先ほど岡委員のほうからも、徳島市としっかり協議しながら県市協調でというふうなお話も頂いておりますので、徳島市としっかりと協議をしてまいりたいと考えております。

梶原副委員長

分かりました。一時は本当に徳島駅前が寂れてまして、ここ10年ぐらいで徳島駅前はスターバックスコーヒーが来たり、一挙に店が増えてホテルが建ったりして本当に盛り上がってきたところに新型コロナウイルス感染症の問題が出て、そごう徳島店の問題も出たということで水を差されたようなことなんですけれども、今回新ホール建設の問題もありますし、また新ホールから徳島東警察署はずっと公有地が続いています。また中州市場もありますから一帯的に面白い街になるようなビジョンを市と一生懸命に協力していただいて、作っていただきたいなと思っております。

よろしく願いいたします。

岩佐委員長

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

これより採決に入ります。

お諮りいたします。

県土整備部関係の付託議案は、これを原案のとおり可決すべきものと決定することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

御異議なしと認めます。

よって県土整備部関係の付託議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

【議案の審査結果】

原案のとおり可決すべきもの（簡易採決）

議案第13号，議案第18号，議案第19号

以上で、県土整備部関係の審査を終わります。

これをもって、本日の県土整備委員会を閉会いたします。（11時43分）